国立国語研究所学術情報リポジトリ

A Comparative and Stylistic Study of the Sentences of Newspaper Editorials and Novels

メタデータ	言語: jpn
	出版者:
	公開日: 2019-02-15
	キーワード (Ja):
	キーワード (En):
	作成者: 大久保, 愛, ÔKUBO, Ai
	メールアドレス:
	所属:
URL	https://doi.org/10.15084/00001702

新聞社説の文章と小説の文章

——その文体論的比較研究——

大久保　愛

新聞の社説は，文章の種類からいえば議論文，あるいは論説文と言われるものである。一方小説は，情の文，あるいは叙事文と言われている。そこで，この社説の文章と小説の地の文章とを比較して，これら二つの文章の間にある文体的相違を明らかにしたいと思う。たとえば文章の固さからみても，社説の文章は小説の地の文章に比べてはるかに固い。このことはいうまでもないことだが，このちがいが言語面のどういうところにあるかをみるのも一つの課題である。ここでは次の三つの点からみていくことにする。

1. 文の長さ
2. 文末の形式
3. 表現性

資料の抽出法

資料としては，社説では，1957年9月1日から1958年8月31日までの1年間の朝日，毎日，読売各新聞の文章を使った。その抽出法は，三紙を別々の母集団として，365日分から17日分ずつ，つごう51日分の社説を乱数表によって無作為に抽出し，その各17日分の社説を文の数に分け，それをまた無作為に抽出して100センテンス(文)，つごう300センテンスを選び標本とした。ここでセンテンス（文）として取りあげたものは，句点で終っている一つのまとまりである。

これに対する現代小説の地の文章の抽出法は，次のようにした。現在世に出ている小説家の文章全体について無作為抽出をするのが正確な方法であるが，到底手におえないので，手もとにある『小説新潮』の1958年6月号から10月号までの小説（小説家50人各別人，作家名省略）のページ数を母集団とし，社説と同様に乱数表を使って無作為に抽出し，100ページ選び，その100ページに

書かれている会話を除くセンテンスを数え，それをまた無作為に抽出して，社説と同数の300文を標本として選んだ。

社説の文章と小説の文章

社説欄は各新聞400字詰原稿用紙で4枚から6枚使っている。最近はその枚数の中で二つの問題が取り扱われていることが多い。そして一方が政治，経済，外交に関係した問題だったら，他方は社会，家庭の問題というように硬軟かねそなえて読みやすいようにくふうされている。

社説の文章の組立はこうなっている。まず最初に最近起きたニュースの中で社説として取りあげようとした問題の提示，記述からはじまり，それを取りあげることについての事態の叙述，説明，見解を中心として，最後は，その問題についての書き手の意見，希望で終る。段落ははっきりと分れ，テーマ，主張点も明瞭に出ている。使われている用語としては漢語が多い，というのが，大ざっぱにみた社説の文章の特色である。

一方，小説の地の文章は，取りあげた『小説新潮』という雑誌の性格に左右されている。『小説新潮』に掲載されている小説は，いわゆる中間小説と言われているもので，純文学と名づけられている小説に比べると，会話文が主になってストーリー（筋）が進められ，地の文はそのつなぎ的性格になっている傾向が強い。用語もむずかしい漢語は使われていない。そして，社説が主観的判断文を主として使って書いているのに対して小説は，客観的描写が主となっている現象文で書かれている。

1　文の長さ

波多野完治氏の『現代文章心理学——小説・新聞・論文のスタイル——』（昭和25・12・新潮社）この著は，副題にも書いてあるように，小説・新聞・論文のスタイルが研究されている。論文では昭和22年3月から5月にいたる総合雑誌及文芸雑誌5種から現代ジャーナリストの文章を選んで文の長さを調査している。それとわたしの社説の調査を比較してみると第1表のようになる。

社説の文の長さは平均56.95字で，波多野氏の現代ジャーナリスト調査（以下現代ジャーナリストとよぶ）の60.506字よりは短かくなっている。しかし数

第1表

字　　数	波多野氏現代ジャーナリスト調査	大久保社説の調査
1—9	4	0
10—19	46	12
20—29	67	46
30—39	71	36
40—49	56	51
50—59	59	42
60—69	42	27
70—79	32	23
80—89	31	23
90—99	28	10
100—109	25	9
110—119	5	7
120—129	11	4
130—139	7	3
140—149	4	3
150—159	3	3
160—169	2	0
170—179	0	1
180—189	2	0
190—199	1	0
200—	4	0
計	500	300
総字数	30253	17085
一文ニ付平均字数	60.506	56.95
標準偏差	41.6	30.5

値に幅をもたせて考えれば，平均55字乃至60字というわけでほとんど同じである。しかし標準偏差は社説が30.5，現代ジャーナリストが41.6となり，平均点からのばらつきは，社説のほうが狭くなっている。社説では，平均点を中心にして26字から88字ぐらいの長さの文が多いのに対して，現代ジャーナリストでは，平均点を中心にして19字から103字の間の長さの文が多くなっている。そして社説の文は，極小11字，極大171字に対し，現代ジャーナリストの文は，極小5字，極大514字となっている。これは，社説は400字4枚から6枚という制限のもとに，新聞社というワクの中で書かねばならないというのに対して，現代ジャーナリストの文は，自由な個人的立場で，自分の好むがままに書けるからであろう。

いちばんたくさん出てくる文長は，社説40字台で，現代ジャーナリストは30字台である。しかし20字台から50字台の文長を持つ文が全体の5割から6割に及んでいることは両調査とも同じである。ただ社説のほうは40字・50字台が93で，20字・30字台の82と比べて多く，現代ジャーナリストの40字・50字台115，20字・30字台138に比べて逆になっている。しかし，両調査とも100字以上の文，9字以下の文が少なくなっていることには変りなく，社説も現代ジャーナリストと同様に50字を中数として9字以上，100字以下の文を好んで使っているといえる。ただ，極小，極大の文長，その中でのばらつきの幅に，前にも述べたように社説としてのワク，つまり特色が感じられるのである。

次に，社説と小説の地の文の長さを比較してみる。（第2表）

第2表を図にしたのが第1図である。小説（小説の地の文を略して小説とよ

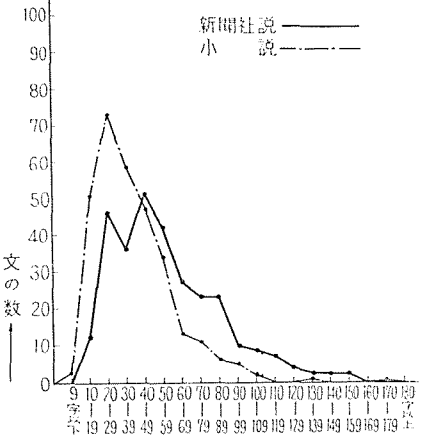
第2表

字　　数	社説の文	小説の文
1—9	0	3
10—19	12	51
20—29	46	73
30—39	36	59
40—49	51	41
50—59	42	34
60—69	27	13
70—79	23	11
80—89	23	6
90—99	10	5
100—109	9	2
110—119	7	0
120—129	4	0
130—139	3	1
140—149	3	0
150—159	3	0
160—169	0	1
170—179	1	0
180—189	0	0
190—199	0	0
200—	0	0
計	300	300
総字数	17085	11367
一文ニ付平均字数	56.95	37.89
標準偏差	30.5	22.3

ぶ）の長さは，20字台が圧倒的に多い。そして9字以下の文もみられ，いちばん長い文でも160字台である。標準偏差も22.3で社説よりもばらつきの幅がせまく，平均字数が37.89であるから，8割に近い文が16字から60字の文長を持っていることになる。それにしても現代の小説家は短かい文を好んで書くということに驚く。波多野氏が中央公論社版『文壇出世作全集』（昭和10年刊）によった調査によっても，文の平均の長さは34.5字，中数26字，もっとも好んで使用する長さは10字台標準偏差は26.6字となっていて，短かい文が好まれている。(『現代文章心理学』173ペ)

また波多野氏は変化係数（147ペ）というものを調査し，77.1という数字を出している。そして，変化係数が80%近くあるのは，「小説はあらゆる文章型がこころみられる，長いのから短かいのまで，いろいろな種類の文章が書かれているからだ」（174ペ）と言っている。ちなみに現代ジャーナリストの変化係数をあげると68.7新聞記事56.6である。わたしの調査では，小説の変化係数58.8，社説53.3であって，波多野氏流に言えば，変化係数が低い数であるから，社説も小説の文章も，大体似た文長で，美文性が少なくなった

第一図



と言えそうである。小説もストーリーで読ませるので，昔風の文章で読ませるということがなくなったのかもしれない。しかし，社説に比べると小説のほうが文長にいくらか変化があるようだ。

この変化係数からみると，社説が最も文長の変化がなく，味もそっけもない文章ということになる。読者から敬遠され，理解調査をすると，最低の成績をとるということになるのかもしれない。1955年に行なった高校生の新聞接近理解調査によると（『高校生と新聞』昭和31・6・秀英出版）社説をいつも読むものは東京の高校生の21％で（社会記事69％），理解の点数は50点であった。

2　文末の形式

文末の形式は，その文が判定文（または判断文）か現象文かということをきめるきめ手になるばあいがある。そこで社説と小説にはどのような文末が多いかを調べてみた。（第3表）ここでいう判定文は書き手の主観である意志が強く出ている文であり，現象文とは，客観的な描写，叙述，説明がなされている文のことである。

第3表をみると，社説の文末形式のほうが，小説の文末形式より，種類の少ないことがわかる。そして，社説の文末には，予想したとおり一定の型があることもわかる。文末の形式で多いものから順に述べてみると，"である形"が71で多く，次に"動詞終止形"44，"ない形"36，"た形"35，"ている形"34，"形容詞終止形"20，"う・よう形"20，"れる

第3表

文末の形式		社説	小説
動詞終止形		44	13
形容詞終止形	ない形	12	6
	その他	8	
である形（で＋補助動詞）		71	19
ている形（て＋補助動詞）		34	2
てしまう形（て＋補助動詞）			1
れる形（受身・可能の助動詞）		14	3
た形（過去の助動詞）		35	205
う・よう形（未来の助動詞）		20	6
ない形（打消の助動詞）		36	6
ぬ・ん形（打消の助動詞）			3
まい形（推量の助動詞）		7	
らしい形（推量の助動詞）			4
たい形（希望の助動詞）		3	
だ形（断定 or 指定の助動詞）		8	15
です形（断定or指定の助動詞）			7
ます形（ていねいの助動詞）			2
な（終助詞）			1
接続詞止			2
体言止			1
連用形止			1
疑問形（か・？）		8	3
計		300	300

形″ 14, ″だ形″ 8, ″疑問形″ 8, ″まい形″ 7, ″たい形″3 という順序になる。

それに対して，小説のほうは，″た形″ が 205 で断然多く，次に ″である形″ 19, ″だ形″ 15, ″動詞終止形″ 13, ″です形″ 7, ″形容詞終止形″ ″う・よう形″, ″ない形″ 各 6, ″ぬ・ん形″, ″疑問形″ 各 3, ″ている形″, ″ます形″, ″接続詞止″ 各 2, ″終助詞″, ″体言止″, ″連用形止″ 各 1 となっている。次にその各々について用法と実例を述べる。

″である形″ は，社説の文末として，小説19に対して71も使われている。これは指定の助動詞である ″だ″, ″です″ と同じく，確定判断の表現に使われる。つまり，主概念と賓概念が論理的に肯定的な関係で結びついている客観的な概念に対して，書き手の確定判断を示すものである。しかも，社説ではこのような論理的関係や判断内容の妥当性を確定する判断にとどまらないで，書き手の強調，確信の心持が加わっているばあいがある。また，″べきである″ という形式を使って，″である″ という文末が意見的にもなる。社説では，″である形″ は意味することの同じ ″だ形″ を加えると79となる。小説では，″だ形″ と ″です形″ を加えて41である。

社　説	小　説
○これに対して中労委が私鉄総連の争議に職権あっせんに入ったのは当然である。	○それを隣りの奥さんが眼をさまして聴いたのである。
○首相はこの際，憶せず屈せず堂々と所信にまい進して，国民を納得させる人事を行うべきである。	○こういう高級品でないとイギリス製の羅紗の塵埃などは払えないからだ。
○そのためには，われわれ自身が核武装をせぬことである。	○ユリ子は夜，戸外をぶらぶらするのが好きなのです。

社説で次に多いのは動詞，形容詞，すなわち，用言の終止形である。形容詞の ″ない形″ を除いて両方で55。これは主観的な判断を加えず，ただありのままに現象を描写，叙述するのに用いられる。

○会社側は収益の激減と施設の改善と増大のため，要求をいれる余地はないという。
○日本のガン患者は推定三十万といわれ，一年に七万人が死んでいる。

社説の55に対し，小説は19となっている。例をあげれば，

○おゆうは，闇に向かって目を据える。
○こんどは返礼として，義昭が義景の館を訪問する。

一方，社説では，考える，思う，感ずる，信ずるなどという感想的あるいは意見的動詞が4割数えられる。これは社説の文章の性質から当然といえる。

○それだけに，この間に示された日本政府の態度には満足できないものを感ずる。
○これでは決して全体の教育水準の向上とはいえないと思う。

さらにこの傾向は形容詞でもみられる。すなわち，多い，ほしい，心もとない等の語を使って意見的感想的な文をつくっているのである。

○しかし，男子のばあいはなんらかの専門技術で特色を発揮できる学校にしてほしい。

"ない形" は36もある。これは否定の意をあらわす打消の助動詞であるが，形容詞の "ない形" を加えると44，否定推量形の "まい形" も加えると，51にもなる。小説では 9，形容詞の "ない形" を加えても15に過ぎないのに比べ，それをはるかに越している。ある事がらを客観的でなく主観的に否定することは，その事だけでも書き手の意見なり主張なりを述べることであるが，社説では，否定形を使うことによって，ただの肯定判断よりも強く，書き手の意見なり主張なりを開陳するというような使われ方もされている。

社　説	小　説
○広告は販売のたんなる便法ではなく，まして余剰物ではさらにない。 ○……こんなに無造作に食管特別会計に繰入れて，転用，乱費のもとをつくるのには賛成できない。	○訳をただしている暇はない。 ○姉テルの行方もわからない。

"た形"，過去形の助動詞は社説では35を数えるに過ぎないのに，小説では205もあって，小説の文末形式としては圧倒的に多く，7割にも近い数である。

社　説	小　説
○土屋福岡県知事のリコール運動本部は去る九日で締切ったリコール署名の総数を八十六万人と発表した。 ○この態度については，革同派ならびに共産系の代議員から，強い反対があった。	○やがて，新八郎は，落ち着かぬ様子で腰をあげた。 ○就職後，三カ月も経ぬうちに，彼は新妻を迎えた。 ○結局，ノモンハン事件は日本側の大敗退に終った。

この実例のように "た形" は，社説では，題目としている問題がどういう経過をとって今日に至ったか，あるいはそのことと関連することではこんなこともあった，というように過去の出来事として客観的に叙述，説明するばあいに

使われている。小説で多いのは，主人公がどんなふうな心理で，どんなふうな行動をとり，どんなことを言ったか。またはその場所，時間の状況はどんなふうだったか，という客観描写に使われている。小説では会話文以外はほとんどが，彼あるいは特定の名まえをもった主人公の行動，意見であり，作者の判断は時々しか登場しないから，大部分が書き手の意見，判断でみちている社説とちがって〃である形〃が少なくなり，「現象の描写」に使われる〃た形〃が多くなるのである。

しかし，このことは過去形〃た〃のみではいえないことで，〃た〃に接続する用言とか，助動詞に影響されているのである。そこで過去形〃た〃に接続する用言及び助動詞の形式をみることにする。（第4表）このように，判断や感情をまじえないで現象を客観的に描写する動詞形が多い。社説28，小説94となっている。小説でその次に多いのは〃である・だ形〃で33，その次が〃ている形〃29，それから〃ない形〃13となる。だから，小説でも社説でも〃た形〃が多いといっても，その〃た形〃に接続する前の部分を調べないとその文の性質が言えないのである。

第4表

過去形〃た〃に接続する形式	社説	小説
動詞形	28	94
ている形		29
てしまう形	1	5
てみる形		2
ていく形		1
だ　形	1	19
である形	3	14
です形		2
形容詞形 ない形		3
形容詞形 その他	1	4
れる形	1	6
せる・させる形		3
ない形		13
ます形		9
らしい形		1
計	35	205

〃ている形〃は，動作・状態が継続，進行していることを示している。小説では過去形の前に使われている〃ている形〃の29を除くとたった2であるのに対して，社説では34も使われている。社説では次にあげる例でもわかるように，現在起って継続，進行している事件を説明記述する文に使われる。

○アメリカでは広告サービス機関が支配的な独立事業となり，大衆のほうも新聞や雑誌を広告のために購入するという事態が生じている。

○仏財政はまさに軍事費でおしつぶされた形となっている。

〃う・よう形〃は未来形で，社説に20，小説に6あるが，これは単なる未来と

いうより，らしい，まい，ようだ，などと同じように書き手の不確実な判断や想像上の事がらについて述べる主観的表現である。

社　説	小　説
○それにはインドネシアの内政や対外関係の安定も一つの条件となるであろう。	○その母の前にいきなり小鶴をつれて帰るわけにも行かないのだろう。

しかし，社説ではその上，前の部分の用言や助動詞によって，語られている問題，あるいは人に対する意見を婉曲に述べるという色合いも出ている。

○ソ連もこの事実を認めるならば，こうした情勢をつくった根本問題を解決しなければならないことを知るであろう。

社説だけにある "まい形" は，否定形ない形のところでも述べたように，否定推量の意図よりも，書き手の意志をあらわしている。

○少なくとも非常におくれている流通機構を，すっきりした形にしなければなるまい。

疑問形の "か" も，社説では特に純粋な疑問にばかりでなく，反問とか難詰，念を押すという意味で使われている。そして，書き手の肯定または否定の気持を疑問形を使うことによっていっそう強めて表現し，意見的主張の色合いが濃い。

○赤字だといいながら，付帯事業はどんどん拡張している事実を，運輸省や運輸審議会は一体どうみているのか。

○製作者は，この心理計算をやってみたことがあるか。

その他社説だけにあった願望表現の "たい形" の例をあげると，

○我々は，こんどのソ連の態度が最終的なものでないことを期待したい。

これも書き手の意見的主張が強い。

その他，受身の助動詞と言われる "れる形" が社説に14，小説に3ある。小説ではそのほか文末が接続詞になっているもの，体言止，連用形止，終助詞な止，などと変化に富んでいる。会話文の文末形式をいれるともっと多くなるだろう。

○……次の公判は二十八日だから，それから八日目。（体言止）

○もちろん，それは実現不可能だったと誰にもわかった，眼の前に池永夫人が居るのだから。（接続詞止）

第3表を以上の説明からまとめなおしたものが第5表である。

第5表によると，社説では "である・だ形" が83で最も多く，次が用言の終止形で81，次が "ている形" 35，"ない形" 48，"う・よう形" 20……というこ

第5表

文末形式	社説	小説
である・だ・です形	83	76
用言の終止形	81	111
ている形	35	40
ない・ぬ・ん形	48	31
う・よう形	20	6
れる形	15	9
疑問形	8	3
まい形	7	
らしい形		5
ます形		11
たい形	3	
せる・させる形		3
その他		5
計	300	300

とになり，小説は用言の終止形122（ていねい形のますをいれる）で最も多く，次は〃である・だ・です形〃76，〃ている形〃40，〃ない・ぬ・ん形〃31……となっている。社説では，〃である・だ形〃〃ない形〃〃う・よう形〃等の主観的判断の文をつくる文末形式が多く使われ，用言の終止形も約半分は主観的な語イが使われている。つまり，文の$^2/_3$は主観的な判定文で，他の$^1/_3$が客観的叙述，説明の現象文であるということになる。これは社説の文章という項でも述べたように，社説においては，〃ている形〃とか〃た形〃を使って政治，外交，経済，社会の場面で実際に起った問題，つまり事実を，問題提起の形で出し，それに対して，肯定判断の〃である形〃あるいは否定判断の〃ない形〃を使って，書き手としての見解とか意見を開陳，主張する形式になっているのだから当然のことである。

一方小説は，作者の主観的意見，感想を述べるよりは，むしろ，それを極力さけ，小説に出てくる人物の心理なり行動なりを客観的に描写，叙述，説明する。そして読者をして作品の人物と行を共にさせようとする意図を持って書かれるのだから，自然会話文が多くなり，客観的に事態を描写する用言の終止形，あるいはその過去形が社説とは反対に多用されることになる。すなわち，社説においては判定文が多く，小説においては現象文が多いということになるのである。（随筆においては，あるいは判定文，現象文が半々ということになるかもしれない）

3　表現性

社説の表現は，抽象的であって，情緒的表現性に乏しいということがいえそうである。そこで，抽象的であることの実証のために漢語の使用度を質量の面から調べ，情緒的表現性の調べには，比喩，声喩，色彩語，修飾語の使われ方

をみることにした。

(1) 漢語の使用

社説の漢字含有率をみると，全文字数に対して漢字36％で，小説の漢字含有率32％に比べて必ずしも多くない。しかし，三字以上の漢語使用率は，社説では一センテンスに2.4語。四字以上の漢語は1.5語で，三字以上の漢語の中で6割強もしめている。一方小説の三字以上の漢語は0.7語で，一センテンスに一つ含まれていないことになる。

社説の三字以上の漢語をみると，基本的，合理化，公共性，不均衡などと，的，化，性，不などのついたものが多い。四字以上の漢語は，前の部分の漢語があとの部分の漢語を広い意味で修飾している複合語である。四字のものには討議事項，国際緊張，官僚政治，早熟現象，基本事情，五字以上のものには，犯罪捜査能力，減免税措置，階級的立場，最低生活保障経費等がある。これら漢語のために文章はひきしまっているが，同時に社説の文章を読みにくくもしている。

(2) 比喩，声喩，色彩語，修飾語の使われ方

比喩としては小説が「まるで，靴でも注文して置いたかのように」家柄その他がつりあった花嫁とか，「拳闘家くずれじみた男」など，という直喩を使って表現しているのが22もあるのに，社説ではそういう例が2つあったが，むしろ，「壁」「神武景気」「ピラミッド」「キバ」などという隠喩がめだった。声喩も小説には「クックッと笑う」「ハラハラした」などと9つあったが，社説には2つしかみられない。色彩語も小説が「赤い」「青い」「蒼白い」など7つあったが社説には一つもなかった。

修飾語では，第6表のように，小説には動詞を修飾する副詞が72と最も多く，次いで名詞を修飾する形容詞が39と多くなっている。これは形容詞による修飾語も小説では多いことを語っている。それに比べ社説では，副詞は小説と同じく，いやそれ以上に149と多くなっているのに，形容詞は19と少ない。つまり社説では，事がらのくわしい描写説明よりも，事がらの程度，状態を示して，動作や行動を強める副詞的修飾語が多く使われているのである。社説で使われている副詞をあげると，最も5，かなり4，非常に4，決して3，まさに3，少なく

とも3, 一層2, 等々である。

第6表

	副詞的修飾語				形容詞的修飾語			
	副詞	形容詞連用形	形容動詞連用形	計	連体詞	形容詞連体形	形容動詞連体形	計
社説	149	11	49	209	7	19	58	84
小説	72	11	15	98	4	39	24	67

また，社説では，形容詞的修飾語の7割に近い数が形容動詞によってしめられている。形容詞よりも形容動詞による修飾語が多いのである。そのうち3割は的のついた語である。これは，社説が非常に漢語を愛用していることを物語っている。例をあげよう。最終的な，恒久的な，弾力的な，具体的な，厳密な，微妙な，公正な，深刻な等々である。

このように社説の文章はむずかしい漢語を多用し，しかもその上情緒性に乏しく，表現性においては小説に劣っている。

小林英夫氏などによって作家間の文体の個別的比較研究は試みられているが，文章のジャンル間の文体論的比較研究は前に述べた波多野氏および樺島忠夫氏の研究以外にはなされていないようだ。そこで，わりに容易に標本抽出のできる新聞の社説の文章を主として，小説の地の文章と，文の長さ，文末の形式，表現性について比較研究を試みてみた。特に文末の形式は文章のジャンル間の相違の発見に効果を発揮するのではないかと思い，まだ未熟ではあるがあえて使ってみた。